

## オンデマンド配信で単位取得可能な講演一覧

※リハビリテーション医学会の単位のみ6月14日（月）から7月30日（金）までオンデマンド配信で取得可能です。

種別	演題名	演者	リハ単位
米国医学アカデミー国際会員選出記念講演	活動医学としてのリハビリテーション医学の展開	才藤 栄一	○
特別 8	NICUのリハビリテーション医療	近藤 和泉	○
教育 6	変形性膝関節症に対する保存療法の有効性と課題	池内 昌彦	○
教育 14	義肢装具士の将来像—文脈に基づいて—	坂井 一浩	○
教育 22	がん患者の運動器管理—がんロコモという考え方—	森岡 秀夫	○
教育 30	身体障害者手帳の書き方・留意点について	杉原 勝宣	○
特別 1	反復性経頭蓋磁気刺激の結果から見た脳卒中上肢麻痺の訓練内容	安保 雅博	○
特別 9	成人脊柱変形の治療戦略 現状と課題	種市 洋	○
教育 7	包括的呼吸リハビリテーション最前線	海老原 覚	○
教育 15	回復期リハビリテーション病棟での帰結予測	園田 茂	○
教育 23	診療報酬および介護報酬改定から考える回復期リハビリテーション病棟の運営～小規模地方病院の立場から～	大井 清文	○
教育 31	運動発達障害のリハビリテーション治療	小池 純子	○
特別 2	小児の希少難病診療を通じて学ぶこと	芳賀 信彦	○
特別 10	脊椎転移がんの治療戦略	川原 範夫	○
教育 8	股関節疾患のリハビリテーション治療	馬庭 壯吉	○
教育 16	急性期からおこなう治療としてのリハビリテーション医療	西村 行秀	○
教育 24	当院における軽症および中等症の COVID-19 病棟患者に対するリハビリテーション治療	降矢 芳子	○
教育 32	切断者を支えるシステム	西嶋 一智	○
ランチョン 1	リハビリテーション医療における患者身体活動量の定量化の試み	上條義一郎	○
ランチョン 2	片麻痺の歩行分析, ロボット練習への展開	才藤 栄一	○
ランチョン 3	睡眠薬服用に際してのリハビリテーション治療上の注意点	美津島 隆	○
ランチョン 4	リハビリテーション支援ロボット DIEGO を用いた上肢機能訓練	津田 英一	○
特別 3	先端リハビリテーション機器開発と将来展望	島田 洋一	○
特別 11	就労年齢中途障害者に対するリハビリテーション支援	佐伯 覚	○
教育 1	対話に基づくリハビリテーション医療	出江 紳一	○
教育 9	股関節疾患のリハビリテーション医療	高窪 祐弥	○
教育 17	ヒト脳の側性化と臨床—言語と空間性注意の神経ネットワーク—	石合 純夫	○
教育 25	末梢磁気刺激の臨床応用	加賀谷 斉	○
教育 33	リハビリテーション診療の可視化・標準化に向けて	井手 睦	○
「運動器の健康・日本協会」企画講演 01	二次骨折予防から始まる脆弱性骨折のトータルケア	山本 智章	○
教育 38	高次脳機能障害の精神障害者保健福祉手帳用診断書の書き方	高岡 徹	○
教育 39	パラスポーツの医科学サポート—日本障がい者スポーツ学会のあゆみ—	大川 裕行	○

種別	演題名	演者	リハ単位
特別 4	リハビリテーション医学・医療のデジタルトランスフォーメーション	佐浦 隆一	○
特別 12	生活期リハビリテーション医療の現状と課題	近藤 国嗣	○
教育 2	ロボット手術時代における股関節疾患のリハビリテーション医療	稲葉 裕	○
教育 10	小児リハビリテーション診療へのいざない	里宇 明元	○
教育 18	リハビリテーション医学・医療の対象となる慢性痛	矢吹 省司	○
教育 26	交通事故後の脳外傷に対するリハビリテーション治療	渡邊 修	○
教育 34	回復期リハビリテーション患者における運動器合併症と併存症	猪飼 哲夫	○
「運動器の健康・日本協会」企画講演 02	舞台表現者の運動器疾患・障害のリハビリテーション医療と予防—舞台医学 Stage Medicine の普及・啓発を—	武藤 芳照	○
特別 5	脊椎・関節疾患に対するロボットリハビリテーションの実際と今後の展開	山崎 正志	○
特別 13	地域包括ケアシステムの中でのリハビリテーション医療—「活動を育む」—	川手 信行	○
教育 3	COVID-19 これまでにわかっていること、これからの対応	黒澤 一	○
教育 11	さまざまな合併症をもつ患者でのロコモティブシンドロームの現状	緒方 直史	○
教育 19	「2021年改訂版 心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン」の紹介	牧田 茂	○
教育 27	自動車運転再開のリスク管理と支援	武原 格	○
教育 35	リハビリテーション医療におけるリスク管理	隅谷 政	○
特別 6	臨床神経生理学	正門 由久	○
特別 14	関節軟骨再生とリハビリテーション医療	安達 伸生	○
教育 4	リハビリテーション医療と神経因性膀胱	榊原 隆次	○
教育 12	安全な遠隔リハビリテーション実施にむけて	大田 哲生	○
教育 20	MR 像による骨格筋の動作解析—新しい手法—	美津島 隆	○
教育 28	がんの周術期リハビリテーション治療	城戸 顕	○
教育 36	ウイズコロナ時代のリハビリテーション医療提供時の感染制御	藤谷 順子	○
特別 7	宇宙医学から学ぶコロナ時代のロコモ対策—運動器廃用予防の重要性—	志波 直人	○
特別 15	サルコペニアと急性期リハビリテーション医療	小林 龍生	○
教育 5	高齢者の脊椎椎体骨折を極める—成書に書かれていないリハビリテーション診療のコツ—	三上 靖夫	○
教育 13	脳卒中センター認定制度	橋本洋一郎	○
教育 21	障害者スポーツ帯同のいろは	羽田 康司	○
教育 29	肝疾患のリハビリテーション診療	伊藤 修	○
教育 37	骨格筋機能を高めるために—その基礎と臨床—	梅津 祐一	○

種別	演題名	演者	リハ単位
特別 16	成人脊柱変形治療の 10 年を振り返って—その進化と未来は—	松山 幸弘	○
特別 23	肩偽性麻痺に対する手術療法の術式とリハビリテーション治療	今井 晋二	○
スポンサード	痙縮の発現部位、重症度を考慮した治療方法の選択	根本 明宜	○
教育 46	リハビリテーション医療とチームワーク	才藤 栄一	○
教育 54	重力のみならず生体の反応と急性期リハビリテーション治療	佐々木信幸	○
教育 62	高次脳機能障害に対するリハビリテーション医療	生駒 一憲	○
教育 70	リハビリテーション医療におけるフィジカルフィットネスの重要性	上條義一郎	○
特別 17	医療関係者に必須のロコモ・サルコペニア・フレイル—最近の話題—	帖佐 悦男	○
特別 24	産官学、医工連携におけるものづくり（楽観論） 「漫画、You tube、VR など学ぶリハビリテーション医学」	菅本 一臣	○
特別 30	小児期の足部変形や障害に対する治療	和田 郁雄	○
教育 47	東京パラから学ぶこと—リハビリテーション医学と社会的視野より—	陶山 哲夫	○
教育 55	10 歳若返る！「インターバル速歩」 —リハビリテーション医学への応用の可能性—	能勢 博	○
教育 63	リハビリテーション関連専門職養成における大学教育	関 勝	○
教育 71	災害時に JRAT (Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team) に期待されること	富岡 正雄	○
特別 18	我々が目指す脊髄再生医療とは	中村 雅也	○
特別 25	リハビリテーションロボット等をこれからの医療や介護の現場でどのように活かしていけばよいのか!?	浅見 豊子	配信準備中
特別 31	がん悪液質マネジメントにおけるリハビリテーション診療の役割	辻 哲也	○
教育 48	パラリンピックと障害者スポーツ	中村 太郎	○
教育 56	温熱生理学の知見から運動療法を再検討する	芝崎 学	○
教育 64	リハビリテーション科医に必要な呼吸補助装置の知識	上野 友之	○
教育 72	リハビリテーション科医にとって必要な栄養管理とリハビリテーション治療	小西 英樹	○
特別 19	iPS 細胞を用いた中枢神経系の再生医療	岡野 栄之	○
特別 26	高齢者の歩行障害の病態と対策—ロコモから考えるリハビリテーション医療—	土井田 稔	○
特別 32	脳卒中片麻痺に対する促通反復療法とその併用治療の展開	下堂 蘭 恵	○
教育 49	重症患者の筋萎縮	西村 匡司	○
教育 57	活動は、脳梗塞患者の体力増強に加え、生活期での再発予防やがん発症の予防を介して健康維持にも寄与する	間嶋 満	○
教育 65	リハビリテーション診療における自律神経障害のマネジメント—血圧調節障害を中心に—	朝比奈正人	○
教育 73	小児の痙縮治療	柴田 徹	○
教育 78	東京パラを迎えて—障がい者スポーツにおけるアンチ・ドーピング活動—	草野 修輔	○
教育 80	手指腱損傷に対するリハビリテーション医療	峠 康	○
ランチョン 5	ボツリヌス療法を用いた脳卒中後痙縮に対する治療戦略と併用リハビリテーション治療	原 貴敏	○
ランチョン 6	リハビリテーション診療における認知症の鑑別診断とケア	長田 乾	○
ランチョン 7	高齢者のフレイル・サルコペニアと漢方薬	小川 純人	○
ランチョン 8	サルコペニア：運動と栄養の重要性	山田 実	○

種別	演題名	演者	リハ単位
ランチョン 9	ボツリヌス療法と医療連携—大学病院の立場から—	川上 途行	○
	回復期リハビリテーション病棟における痙縮のチーム医療	岡本 隆嗣	
ランチョン 10	糖尿病患者のリハビリテーションの注意点; Pros & Cons	細井 雅之	○
ランチョン 12	Wakayama Spine Study から学ぶ脊椎診療のエビデンス	山田 宏	○
特別 20	これからのリハビリテーション医学・医療—超高齢・重複障害社会にどう対応するか?—	上月 正博	○
特別 27	骨粗鬆症治療 update	田中 栄	○
教育 42	運動療法のエビデンス構築に向けた視点	長谷 公隆	○
教育 50	リハビリテーション診療に必要な末梢神経障害の予後診断	岡島 康友	○
教育 58	運動制御・機能回復を理解するために必要な神経生理	藤原 俊之	○
教育 66	脊髄損傷—脊髄再生を見据えた急性期治療—	須田 浩太	○
教育 74	末梢神経疾患の超音波診断	塚本 浩	○
特別 21	骨粗鬆症性椎体骨折の診断とリハビリテーションを含めた治療	中村 博亮	○
特別 28	重篤疾患患者に必要とされる急性期リハビリテーション医療	中村 健	○
教育 43	災害リハビリテーション医療	大井 直往	○
教育 51	希少疾患に対するリハビリテーション診療の重要性	西田 佳弘	○
教育 59	成長期のスポーツ外傷・障害 ~診療における注意点~	小笠 博義	○
教育 67	日常生活における交感神経活動の統合的調節	三木 健寿	○
教育 75	リハビリテーション医療における電気刺激療法—治療的電気刺激の基本から応用まで—	松瀬 博夫	○
特別 22	変形性膝関節症に対する保存療法	松田 秀一	○
教育 41	高齢患者の下肢人工関節とリハビリテーション診療	須藤 啓広	○
教育 44	内部障害のリハビリテーション医療・医学の進歩	上月 正博	○
教育 52	運動はどのようにして「生活の質」を改善するか—脳科学の立場から—	仙波恵美子	○
教育 60	回復期リハビリテーション病棟におけるチーム医療	岡本 隆嗣	○
教育 68	頸髄損傷の予後から考えるリハビリテーション治療	前田 健	○
教育 76	術後早期リハビリテーション医療—麻酔科医として取り組んできた術中麻酔管理・術後痛管理—	石村 博史	○
教育 40	超高齢社会におけるリハビリテーション医療の現況	末永 英文	○
特別 29	神経筋疾患の呼吸障害とリハビリテーション医療	花山 耕三	○
教育 45	リハビリテーション医療における Evidence-based Practice & Practice-based Evidence	百崎 良	○
教育 53	運動による生体調節	倉林 均	○
教育 61	運動ってなんだ? : 身体運動による健康維持・増進(生体恒常性維持)の分子基盤	澤田 泰宏	○
教育 69	回復期リハビリテーション病棟で脳卒中を診る~ Pearls and Pitfalls ~	角田 亘	○
教育 77	直感的に理解したい人のために講義する, 片麻痺の下肢装具や小児の足底装具・靴型装具	藤本 幹雄	○
教育 79	進化するパラスポーツ—日本パラ陸上競技連盟の歩み—	三井 利仁	○

種別	演題名	演者	リハ単位
特別 33	骨髄間葉系幹細胞を用いた脊髄損傷治療—現状と未来—	山下 敏彦	○
特別 40	VR (Virtual Reality) を用いたリハビリテーション治療	道免 和久	○
教育 86	手術してはいけない神経疾患	桑原 聡	○
教育 93	精神科におけるリハビリテーション医療の実践	平井 基陽	○
教育 101	神経疾患におけるニューロリハビリテーション	植木 美乃	○
教育 109	リハビリテーション医学における活動モニタリングの意義	向野 雅彦	○
教育 114	膠原病における心肺機能と QOL の捉え方	染矢富士子	○
特別 34	脊髄損傷患者に対する新しい幹細胞製剤 (再生医療等製品)	本望 修	○
教育 82	骨腫瘍の切除・再建とリハビリテーション治療	尾崎 敏文	○
教育 87	関節の腫れと痛み—リハビリテーション科医が知っておきたい基礎知識—	高木 理彰	○
教育 94	コロナ禍で見えてきた在宅リハビリテーションの進むべき道	斉藤 正身	○
教育 102	障害者支援・難病などの制度	木村 浩彰	○
教育 110	片麻痺上肢の機能回復訓練—運動の量的水準と目標設定—	濱口 豊太	○
教育 115	リハビリテーション医学研究発表のための伝わるスライドデザイン基本ルール	大橋 鈴世	○
規定講習会 (医療安全)	中規模病院における医療安全の考え方—脊髄損傷の医療における転倒・転落を中心に—	古澤 一成	○
特別 35	データヘルス改革に向けた取組み	三浦 明	○
特別 41	周術期のリハビリテーション医療	千田 益生	○
教育 88	変形性膝関節症に対する治療前後のリハビリテーション治療	出家 正隆	○
教育 95	関節リウマチに対するリハビリテーション治療とその実際	松下 功	○
教育 103	周術期患者のリハビリテーション診療	笠井 史人	○
教育 111	内科医からみた地域病院におけるリハビリテーション診療導入の意義	中島 弘文	○
教育 116	筋力増強のメカニズム	池田 聡	○
規定講習会 (医療倫理)	コロナ禍の医療—倫理的側面—	南條輝志男	○
特別 36	神経変性疾患の治療法開発の時代へ	祖父江 元	○
特別 42	腰痛を呈する脊椎疾患の診断と治療—リハビリテーション治療の可能性を見据えて	竹下 克志	○
教育 89	四肢先天異常のリハビリテーション医療—上肢体表奇形を中心に—	金谷 文則	○
教育 96	脳卒中後片麻痺の回復の予測と病態生理	服部 憲明	○
教育 104	急性期脳卒中リハビリテーション治療	山田 深	○
教育 112	頸髄不全損傷リハビリテーション治療の要諦	住田 幹男	○
教育 117	リハビリテーション医療とサルコペニア—生活期, 急性期, 回復期それぞれの場面で—	入澤 寛	○
教育 119	変形性膝関節症に対する治療法の最先端—基礎からリハビリテーション治療まで—	新井 祐志	○
教育 122	ロコモティブシンドロームの最新知見	永野 靖典	○
教育 123	地域のリハビリテーション診療における急性期と回復期の連携	末永 正機	○
規定講習会 (感染対策)	忘れたころにやってくる感染症のリスク	東本 有司	○

種別	演題名	演者	リハ単位
ランチョン 13	脳卒中後片麻痺者に対する装具選定—評価と治療のPDCAサイクル—	大畑 光司	○
ランチョン 14	機能的電気刺激による慢性期脳卒中患者の歩行能力と身体機能改善効果—PLEASURE trial—	蜂須賀研二	○
	QOL 向上に向けた機能的電気刺激の臨床活用	生野 公貴	
ランチョン 15	経頭蓋直流電気刺激のリハビリテーション治療における活用	佐伯 覚	○
ランチョン 16	急性期における栄養とリハビリテーション医療の連携と相乗効果—I—GREEN プロトコルとは—	中村 謙介	○
ランチョン 17	脊髄障害患者の排泄管理アップデート	古田 昭	○
ランチョン 18	高血圧の治療（降圧薬と運動療法）を考える	山内 克哉	○
特別 37	「リハビリテーション治療は回復期に」という概念は過去になった	武久 洋三	○
教育 83	フットケアにおけるリハビリテーション医療の重要性	田中 康仁	○
スイーツ	最新の骨粗鬆症薬物治療	宗圓 聰	○
教育 97	骨粗鬆症治療の基本と最新トピック	萩野 浩	○
教育 105	採血・注射による末梢神経障害	松永 俊樹	○
教育 113	片麻痺歩行再建の治療戦略	長谷 公隆	○
特別 44	リハビリテーション科医に必要な脳神経血管内治療最先端知識	寺田 友昭	○
教育 120	リハビリテーション医療とロボティクス	大高 洋平	配信準備中
指導医講習会 1	小児と成人の義手（主として筋電義手）のリハビリテーション医療	田中宏太佳	○
特別 43	ひろさきライフ・イノベーション戦略とロボットリハビリテーション	津田 英一	○
教育 90	骨粗鬆症とロコモティブシンドロームとの関連	波呂 浩孝	○
教育 98	脊髄損傷者の職業復帰	徳弘 昭博	○
教育 106	障がい者スポーツの現状と課題—COVID-19 をのりこえて—	徳永 大作	○
教育 118	スポーツ現場における医療の標準化—持続可能な医療サポートをめざして—	山田 陸雄	○
教育 121	人工知能（Artificial intelligence：AI）とIoT（Internet of things）	木村 浩彰	○
指導医講習会 2	リハビリテーション医療においてロボットを安定的に運用するために	陳 隆明	○
教育 81	人工股関節全置換術における周術期リハビリテーションと合併症対策—現況と課題—	山本 謙吾	○
教育 84	筋萎縮性側索硬化症（ALS）の病態解明と治療法の開発	青木 正志	○
教育 91	リハビリテーション医療と気候変動	加藤 真介	○
教育 99	骨・軟部腫瘍の治療とリハビリテーション診療	松峯 昭彦	○
教育 107	関節リウマチのリハビリテーション治療と装具治療	酒井 良忠	○
教育 124	治療と仕事の両立支援	佐伯 覚	○
特別 39	リハビリテーション診療に役立つ人工膝関節置換術の基本	津村 弘	○
教育 85	脊椎骨盤矢状面アライメントとリハビリテーション医療	坂井 孝司	○
教育 92	リハビリテーション専門医の使命：他科の医師や同僚職員に説得力を持つ医師になろう	三好 正堂	○
教育 100	リハビリテーション医療における自律神経障害	和田 直樹	○
教育 108	ウィズコロナにおけるリウマチ患者のケアとリハビリテーション医療	三浦 靖史	○

種別	演題名	演者	リハ単位
特別 45	超高齢社会におけるロコモティブシンドロームと脊椎疾患	松本 守雄	○
教育 125	医学史から見た新型コロナウイルス感染症とその行方	川島 真人	○
ランチョン 19	関節リウマチのバイシエント・ジャーニーに沿ったリハビリテーション医療のすゝめ	佐浦 隆一	○
会長	活動を育むリハビリテーション医学—和歌山における PROr の遂行—	田島 文博	○

### 【6月14日(月)～7月30日(金) オンデマンド配信でのみ単位取得可能】

種別	演題名	演者	リハ単位
特別 46	新時代を切り開く関節リウマチの治療 - 患者の要望に応えることができるか	田中 良哉	○
海外招待 1 (Video Lecture)	The Athlete vs the Couch-Potato's Heart : Friend or Foe	Levine D. Benjamin	○
海外招待 2 (Video Lecture)	Severe Burn Injuries : Long-Term Thermoregulatory and Cardiovascular Consequences	Craig G. Crandall	○
海外招待 3 (Video Lecture)	The Importance of Sport Science in the Paralympic Movement – Reflections of the last 25 years	Vicky L. Goosey-Tolfrey	○
海外招待 4 (Video Lecture)	Exercise as Medicine - the role of myokines	Bente K. Pedersen	○
海外招待 5 (Video Lecture)	Advancing rehabilitation science through collaboration	Julie Bernhardt	○
海外招待 6 (Video Lecture)	A new direction for the Korean rehabilitation medical delivery system	Euy Young Soh	○
海外招待 7 (Video Lecture)	Advances in Prosthetic and Orthotic Devices for Rehabilitation	Alberto Esquenazi	○
海外招待 8 (Video Lecture)	Machine Learning predicts upper limb motor outcomes following robotic therapy and anodal TDCs in chronic stroke	Hermano Igo Krebs	○
海外招待 9 (Video Lecture)	Sarcopenia : from molecules and cells to society	Walter R. Frontera	○
海外招待 10 (Video Lecture)	Developing ClinFIT COVID-19 : An ISPRM initiative to scale up rehabilitation for COVID-19 patients and survivors across the care continuum	Gerold Stucki	○
海外招待 11 (Video Lecture)	The Evolution of Paralympic Sports Medicine	Nick A. Webborn	○
海外招待 12 (Video Lecture)	Scientific Basis of Rehabilitation Medicine; Evidence-Based Rehabilitation Medicine	Moon Suk Bang	○
海外招待 13 (Video Lecture)	米国におけるリハビリテーション科医の教育	長尾 正人	○
海外招待 14 (Video Lecture)	Translating non-invasive brain stimulation from the lab to the clinic to augment motor recovery	Pablo A. Celnik	○
海外招待 15 (Video Lecture)	Sexuality and Sexual dysfunction after SCI	Jorge Lains	○
Prof. Ogata Memorial Lecture	Physiological basis of Rehabilitation Medicine in Person with Stroke and Spinal Cord Injury	Fumihiko Tajima	○
ランチョン 21	消化器とリハビリテーション医学・医療	三上 幸夫	○